



# 山陽スピリット ニュース No34

2024(令和6)年3月15日

発行：学校法人 山陽学園 山陽スピリット推進室

## 異国で時代を生き抜いてきた ある家族の歴史

～山陽学園から宮崎駿へ～

元山陽学園大学・短期大学副学長  
濱田 栄夫

山陽学園が創立される8年前（1878、明治11）に来日し、岡山で宣教活動に従事したアメリカ人宣教師たちのひとりにオーテス・ケーリ（Otis Cary、1851-1932）がいた。彼は南北戦争（1861-1865）が始まる8年前にマサチューセッツ州に生を受け、多感な思春期に、62万人もの死者を出す5年間にわたる悲惨な内戦（ドルー・ギルビン・ファウスト『戦死とアメリカ』<sup>1)</sup>参照）を体験した。やがて彼はアマースト大学に入学（1862年）し、一年先輩の新島襄と知り合いになり、海外宣教を志すようになる。

アンドーバー神学校を卒業後1874年に帰国した新島襄の後を追って、ケーリはアメリカンボード派遣宣教師として、イリーン夫人と共に1878（明治11）年来日した。彼は岡山県内で宣教活動をするばかりではなく、石井十次の求めに応じて、石井の出身

地高鍋(宮崎県)にまで2回に渡り足をのぼしている。

10年間にわたる岡山での活動の後に、彼は京都の同志社に活動の場を移すことになるが、その間岡山教会の設立や山陽英和女学校の創設に深く関わった。とりわけ彼の妻イリーンは、西山小寿らとともに創設期の教師のひとりとなって英語を担当した（拙著『門田界限の道』<sup>2)</sup>参照）。

オーテス・ケーリが来日した頃、彼の息子フランク・ケーリは一歳足らずの赤ん坊であったが、やがて成人して宣教師となり、北海道に十カ所ある組合派教会を手伝うために小樽を拠点として宣教活動を続けた。1941年、太平洋戦争開戦の年の8月、日本国内で様々な圧迫を受けて活動が困難になり、フィリピンのダバオに活動拠点を移したが、ダバオが同年12月20日に陥落したため、終戦まで当地で拘束生活を強いられた。1945年、フィリピン解放の日を、彼はセント・トーマス大学内の収容所で迎え、戦後関西で宣教活動を続けた。

小樽時代に生まれた長男オーテス・ケーリ（祖父の名前と同じ）は、後に彼の著作『真珠湾収容所の捕虜たち』<sup>3)</sup>（ちくま学芸文庫、21頁）の中で次のように語っている—私は1921年、小樽市富岡町で生まれ、小学4年生までは日本人ばかりの緑小学校で、ただひとりの碧眼児童として教育を受けた、---入学の日、先生がクラスの子供に話したことを覚えている。「みなさんのうちの誰かが、日本を離れて、どこか遠い外国に行っているとしましょう。お友だちがいないので、ひとりさびしくお家にいると、窓の外を、その辺の子供が揃って楽しそうに学校へ行くのです。みなさんのうちの誰かがその子だったら、どんな気持でしょう。それと同じような子が、きょうみなさんのクラスへ入ってきました。」そのクラスでは、上級生たちが青い目の新入りをやっつけろと殴り込んで来たとき、クラス全員が彼をかばってくれ

ケーリ宣教師一家 明治12年4月来岡<sup>2)</sup>

たりもした。

やがて彼は日華事変が始まる前の年(1936)、14歳でアメリカに帰国し、開戦の年をアーモスト大学の3年生で迎える。学内で親日家で通っていた彼は、その日から友人達の厳しい眼にさらされる。20歳のケーリは、トゲを含んだ周りの視線に囲まれながら、「僕の知っている日本人はこんなことはしない。僕は今これだけしか言えない」と答える他はなかった。

いろいろ悩んだ末、彼は翌年(1942)3月末に、日本語学校をもつ海軍に志願した。そして1943年2月海軍少尉となってハワイへ送られ、司令部の情報部員となる。アッツ島やアリューシャン諸島の戦闘をへて再びハワイへ戻るが、時を追うごとに、太平洋各諸島から送られてくる日本人捕虜は増加した。彼らの多くは、捕虜を恥と思ひ、家族に知られたくないと思ひ、偽名を使う者(長谷川一夫や猿飛佐助もいた)も少なくなかった。そうした日本人と日々向かい合いながら、「捕虜は恥じではない」「捕虜は人間的尊厳をもった存在である」という意識を、彼らの心の中に目覚まそうとし、戦後改革の人材になってほしいと願う強い意志を、ケーリは一貫して持ち続けた。1945年(終戦の年)春、マーシャル諸島から脱出した一団がハワイの収容所に送られてきた。食料も弾薬も補充されず、餓死するか戦友の肉を食って生き残るかという状況の中では、逃亡して捕虜になったことを後悔していないと言い切る日本兵が出てくる。捕虜は恥でないことを徹底して説くケーリの姿勢は、内地の空襲被害を知るにつれて早く戦争を終わらせたいと願う捕虜有志の自発性を促し、「ポツダム宣言」の和訳を本土にばらまく作戦につながった。

終戦の翌月、ハワイから日本に進駐したケーリは、彼を信頼して委ねた捕虜達の直筆の手紙30通をもって彼らの留守宅を尋ねて周った。そうした手間のかかった配達のプロセスで、捕虜のひとり横田正平氏の義兄式場隆三郎博士(精神科医)と面会したことで式場博士との深い信頼関係が生まれた。その結果、式場博士を通して、ケーリは高松宮(昭和天皇の弟)との会談に進むことになり、多くの具体的な天皇制改革への私案を提示することができた。日本の占領時代(1945-1951)を深く研究している米国社会学者

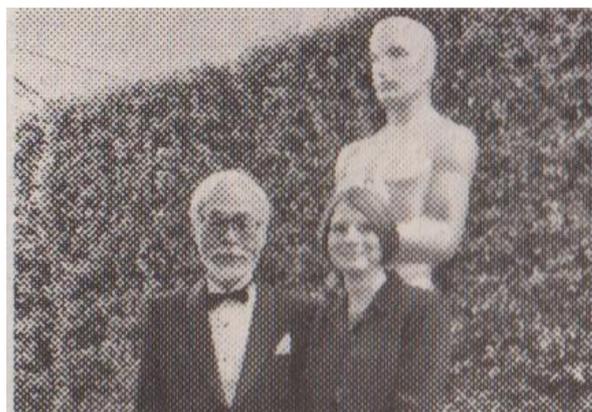
ジョン・ダワー(John.W.Dower)は、彼の著作『敗北を抱きしめて』<sup>9)</sup>(1999)の下巻(49頁)で、天皇の人間宣言と言われている1946年1月1日の詔書が出された背景を列挙して、その一つに、オーテス・ケーリの高松宮訪問をあげている。



高松宮(前列右から3人目)とオーテス・ケーリ<sup>9)</sup>

1947年からケーリは、母校のアーモスト大学から同志社大学教授として派遣されることになる。その後、彼は定年まで同志社大学内に設置されたアーモスト館の館長を兼任し、日本の国際化に大きな貢献をした。彼を派遣したアーモスト大学は、学内にあるチャペルの正面右側の壁に卒業生新島襄の肖像画を掲げているが、第二次大戦中も、敵国人である新島の肖像画を引きおろそうとはしなかった(和田洋一『新島襄』<sup>7)</sup>4~5頁)。山陽学園は創立90周年の式典(1976)を開いたとき、彼を来賓として招待したが、彼は挨拶の中で、祖父母のことや当時の高崎五六県令のことを親しみをこめて語ってくれた。

彼の長女ベス・ケーリは、京都で生まれ育ち、アメリカの大学や上智大学大学院をへて文献研究をした後、2008年からアニメーション作家宮崎駿の著作



宮崎駿監督とベス・ケーリ(2014年11月)<sup>8)</sup>

の英訳をしている。

2021年1月にスタジオジブリ編で『宮崎駿とジブリ美術館』が刊行されたときも、宮崎駿に関心をもつ世界の人々が手にとって読めるように、かなり細かい英訳がつけられたが、英訳はすべてベス・ケーリが担当している。岩波書店の月刊雑誌『図書』2021年11月号に「『宮崎駿とジブリ美術館』を訳す」（6-11頁）と題する、彼女とジブリ関係者との対談記事が掲載されている。その中で彼女は、「どのようにして日本語を学んだのか」と尋ねられたとき、曾祖父がアーモスト大学で新島襄の一年後輩で1878年来日したこと、祖父も父も私も日本育ちで四代にわたって日本と深く関わってきたこと、彼女自身小学校は地元京都の小学校に通ったので、日本語の方が身近だったと述べている。

宮崎駿の作品に関心を持つ人々は幅広い層と世代に渡っているが、彼自身は、現代の日本の子どもと、過去との深いつながりの上に成り立っている日本の現状や国際社会の現状との間に橋を架け、困難な選択に直面する子ども達に、ポジティブに生きる道があることをアニメーションを通じて提示することを試みようとしている。祖父、父、自分と三世代<sup>9)</sup>にわたって子ども時代を日本で体験し、日本人との交流に深い関心を注いできたベス・ケーリが、宮崎駿の仕事の英訳者をまかされてきたことは、単なる偶然的めぐりあわせとは、私には決して思えないのである。

- 1) ドルー・ギルピン・ファウスト（2010）『戦死とアメリカ 南北戦争62万人の死の意味』黒沢眞里子訳、彩流社
- 2) 日本基督教団岡山教会（1985）『岡山教会百年史』
- 3) 濱田栄夫（2012）『門田界隈の道 もうひとつの岡山文化』吉備人出版
- 4) オーテス・ケーリ（2013）『真珠湾収容所の捕虜たち—情報将校の見た日本軍と敗戦日本』ちくま学芸文庫
- 5) ジョン・ダワー（1999）『敗北を抱きしめて』三浦陽一他訳、岩波書店
- 6) オーテス・ケーリ（2013）『真珠湾収容所の捕虜たち—情報将校の見た日本軍と敗戦日本』ちくま学芸文庫
- 7) 和田洋一（2015）『新島襄』日本基督教団出版局  
なお大阪教会初代牧師上代知新（上代淑の父）は、帰国したばかりの新島襄から洗礼を受けた一人である。拙論「上代知新と新島襄」（1996）『上代淑研究 創刊号』所収。
- 8) ベス・ケーリ、安西香月、田居因（2021）「『宮崎駿とジブリ美術館』を訳す」『図書』岩波書店 11. pp6~11.
- 9) ベス・ケーリ、父オーテス・ケーリ、祖父フランク・ケーリの三世代。曾祖父は初代オーテス・ケーリ

## 上代淑先生遺訓「日々のおしえ」

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

この「日々のおしえ」は、社会において役立つ人間であるようにと、上代淑先生の教えを分かりやすく日めくり（1日～31日）の言葉としてまとめたものです。この上代淑先生の遺訓は、時代を越えて卒業生の心を励ましてくれています。

- (1日) 美しい日は美しい月を 美しい月は美しい年を  
美しい年は美しい生涯を
- (2日) 清く正しく あかるく強く 心に愛を育てよう
- (3日) 夜の眠りに「明日こそは」 朝のめざめに「今日こそは」
- (4日) さわやかな挨拶 あかるい一日
- (5日) 人のために尽くす事こそ 私達のよるこびである
- (6日) 重荷を負う人に 手をかしましよ喜んで
- (7日) 近所隣へ思いやり 愛の種を蒔きましよう
- (8日) 事ごとに感謝し 祈りましよう
- (9日) 車掌さんにも 運転手さんにも「ありがとう」
- (10日) 老人や体の不自由な人に すずんで席をゆずりましよう
- (11日) 与えた親切忘れても 受けた親切大きく感謝
- (12日) 辛抱第一何くそで
- (13日) はたらけはたらけ 苦労は心の糧になる
- (14日) 「から手であるな」首をひねって手を働かせ
- (15日) あたえられた仕事は 五〇センチ向こうまで
- (16日) さっさ せっせと働こう 手のあれたのはあなたの誇り
- (17日) あなたの最善今すぐに
- (18日) 美しい行いは 美しい心から
- (19日) ねたまず 憎まず たかぶらず
- (20日) 逢う人ごとにやさしい思いと やさしい行いを
- (21日) 礼儀正しく清潔に 言葉づかいははいねいに
- (22日) 素直な心で明るい返事
- (23日) 無駄なおしゃべり禍のもと
- (24日) 道や広場を清潔に
- (25日) 整頓は人目につかぬところまで
- (26日) 物の命を大切に
- (27日) いらぬガス消せ電気消せ 水一滴もむだにすな
- (28日) 使ったものは元の場合へ 借りた品物すぐ返せ
- (29日) 「アイロン・スイッチ」 「アイロン・スイッチ」  
これ忘れたら大火事だ
- (30日) いつでも後をふりかえれ しのこさないか 戸締まりよいか
- (31日) 広い大空のように ゆたかな心を

（山陽スピリット推進室）